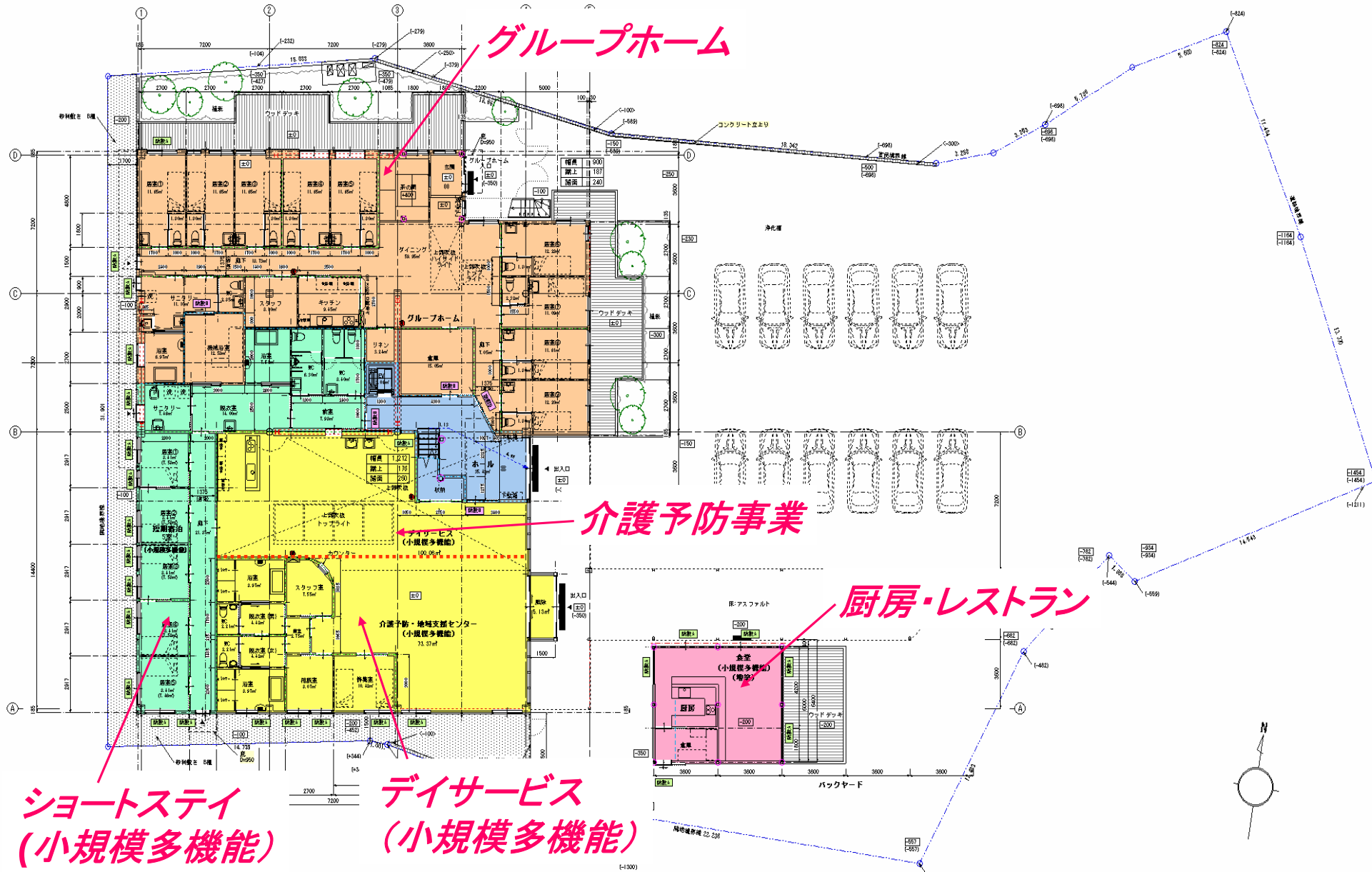


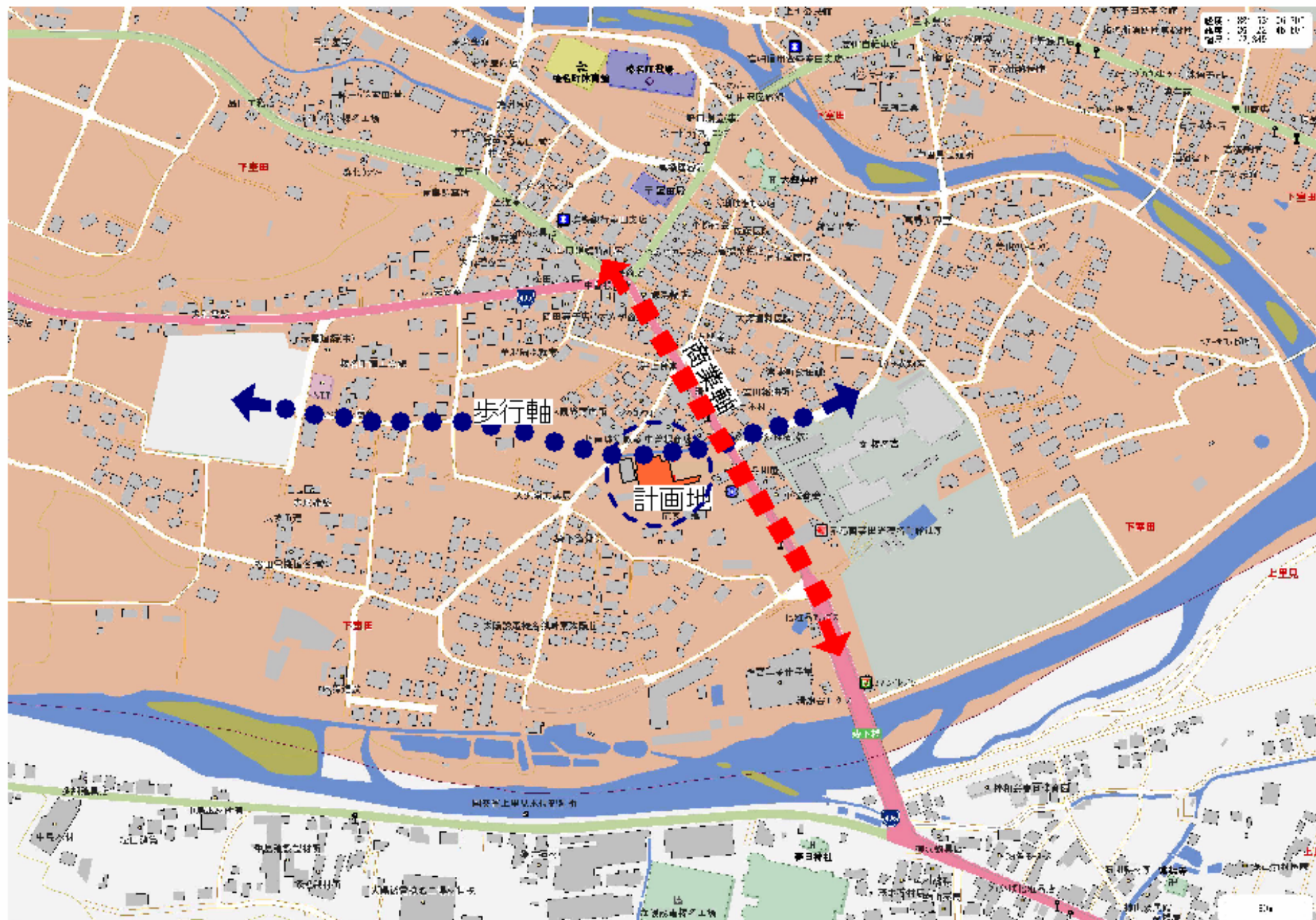


高齡者賃貸住宅

— 陸地植物界 —

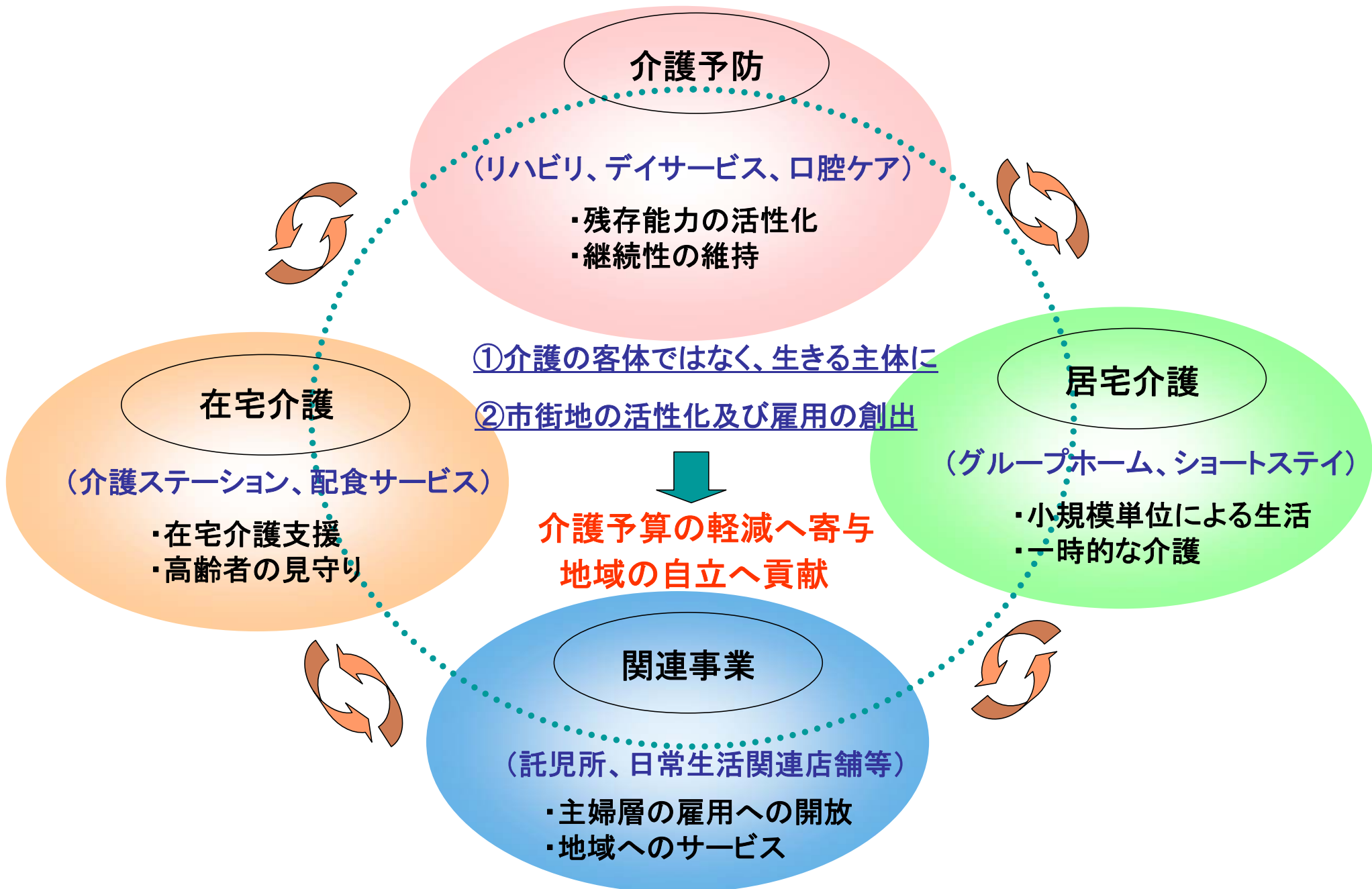
介護事業所

二九〇



商業軸と歩行軸

(仮称)榛名ケアセンター計画の位置づけ



* 既存建物の再利用(コンバージョン)による環境への負荷軽減

サステイナブルな町の構築を目指して

本計画は榛名町の中心市街地に現存した店舗を介護を中心とした複合施設にコンバージョン（建物の用途変更）をすることで、**介護予防・地域福祉及び市街地活性化**に寄与することを目的とする。

他の多くの地方都市において近年問題になっている中心市街地の衰退が榛名町にも見られる。中心市街地の商業活動は自動車依存社会の浸透によってバイパス沿いの大規模店舗に顧客を奪われ、スプロール現象が見られる。旧市街地においては駐車場の確保の問題、経営者の後継問題、消費者ニーズの変化への対応の不備等が考えられる。

最近では、大規模店舗自身も存続の問題が発生し退店する現象も起きている。

本計画は、地域で既に医療・介護活動を長年に渡って行っている（財）榛名荘が中心となって中心市街地に立地していた店舗を再活用する。建物は解体せずに再利用することで環境への負荷を軽減する。

新しい事業として

- ①介護予防の柱として、**リハビリセンター・デイサービスセンター**。
- ②在宅介護支援として、**介護ステーション・配食センター**等。
- ③居宅介護拠点として、**グループホーム 1ユニット、ショートステイ 5室**。
- ④その他関連事業として、**託児所（高齢者とのノーマライゼーション）・生活関連店舗**（地域経済の活性化のきっかけ）。

の大きく4種類の機能を持つ**複合型中規模施設**を創設・運営を行う。

当該施設で展開される複数の事業を中心にして、少しずつ人々が集い始める。計画地の約300m西側にある町所有の大規模な空地进行、当該施設の利用者及び地域住民が積極的に利用する。高齢者の園芸療法を兼ねて菜園や花畑に利用したり、高齢者の屋外活動の拠点とし地域住民と共に活用する。このことは多様なノーマライゼーションの場になる。約100m東側にある榛名高校の生徒は受験勉強も勿論大切な本分ではあるが、本事業を身近に見ることで自分の生まれ育った地域に更なる愛着が湧き、地域の将来や家族について考える良い機会になる。

ここで生産された物は店舗で販売も可能で、高齢者の社会参加の継続および活躍の場の創出により「**高齢者の社会貢献**」を促す。また主婦層が関連することで、日常生活用品・食料品等の需要が生まれる。これらの取り組みが周辺の商店街にも波及し序々に**地域経済活動が活性化**すると想定される。